

令和4年度第2回春日井市地域公共交通会議議事録

1 開催日時 令和5年1月24日（火曜日）午前10時～午前11時30分

2 開催場所 文化フォーラム春日井2階 会議室A及び会議室B

3 出席者

【会長】	中部大学工学部都市建設工学科教授	磯部 友彦
【委員】	名鉄バス株式会社運輸本部首席交通企画官	大野 淳
	愛知県タクシー協会春日井支部長	奥村 薫績
	西部中学校区民生委員児童委員協議会会長	長谷川 久美子
	春日井市老人クラブ連合会副会長	金田 辰男
	春日井商工会議所副会頭	木野瀬 吉孝
	社会福祉法人春日井市社会福祉協議会会長	黒田 龍嗣
	春日井市婦人会協議会理事・書記	伊藤 月美
	愛知県交通運輸産業労働組合協議会幹事	高木 数馬
	春日井市建設部道路課長	苅谷 健生
	愛知県春日井警察署交通課長	坂野 茂樹
	高蔵寺ニュータウンセンター開発株式会社主幹	木村 俊夫
【参考人】	国土交通省中部運輸局愛知運輸支局 首席運輸企画専門官	本田 慎一郎
	愛知県都市・交通局交通対策課主事 特定非営利活動法人	平野 新一
	石尾台おでかけサービス協議会会長	堀田 真澄
	春日井市まちづくり推進部長	小川 喜睦
【事務局】	春日井市建設部次長兼まちづくり推進部次長	尾関 健次
	春日井市まちづくり推進部都市政策課 課長	森 浩之
	課長補佐	熊澤 伸晃
	主査	津田 哲宏
	主査	加藤 隆人
	技師	菊池 滉記
	主事	梅山 拓也

4 傍聴者

2名

5 議題

- (1) 協議事項 1 自家用有償旅客運送の運送の対価の変更について
- (2) 報告事項 1 春日井市地域公共交通計画の実施状況について
- (3) 報告事項 2 サンマルシェ循環バスの見直しについて

6 会議資料

- 資料 1 自家用有償旅客運送の運送の対価の変更について
- 資料 2 令和 4 年度地域公共交通計画の評価結果
- 資料 3 サンマルシェ循環バスの見直しについて

7 議事内容

- (1) 協議事項 1 自家用有償旅客運送の運送の対価の変更について

【堀田参考人】

資料 1 について説明を行った。

【磯部会長】

協議事項のため、意見交換を行った後、決議を行う。

【伊藤委員】

どのような年代の方が運送に関わっているのか。

【堀田参考人】

平均年齢 70 歳程度の退職をした方々をお願いをしている。ドライバー、オペレーター、管理の役割があり、ドライバーは運転免許証を保有し講習を受けた人、オペレーターはパソコンの簡単な操作ができる人、管理は車の状態を確認し、乗車させてよいか判断をする人である。管理については管理責任者もいるため、どの役割でも若い方ではなくても十分な対応が可能だと考えている。

【伊藤委員】

ドライバーを任せる基準は何か。また、ドライバーが一人に偏る状況は起きていないか。

【堀田委員】

ドライバーは希望者と推薦された方である。地区社会福祉協議会や老人会、町内会長等をお願いし、運転できる方を推薦いただいたり、我々で推薦している方もいる。

ドライバーの人数としては、現状で十分な人数が確保できており、ドライバーが一人に偏る状況は起きていない。

【伊藤委員】

同じ方向に乗る人とは乗合になるのか。

【堀田参考人】

予約状況に応じて乗合になる。

【伊藤委員】

車両は何人乗りか。

【堀田参考人】

運転手を含めた7人乗りであるため、実際に乗車できる最大乗客数は運転手と助手席を除いて5人。普段は2、3人の乗車だが、今までには最大5人を乗車させたこともある。

【伊藤委員】

買い物で利用された方の帰りの予約も受け付けているか。

【堀田参考人】

帰りの予約も受け付けている。行きの利用時に帰りは利用するか聞いている。買い物の時間で予約時間に変更があった場合は、電話していただければ予約時間の変更も受け付けている。なるべく利用者が便利に利用できるようにしている。

【本田参考人】

持続可能な運営を目指したいとあるが、輸送人員や運送収入等、目標にしているものがあれば教えて欲しい。

自家用有償旅客運送は、バス事業やタクシー事業がなかなか難しい地域で認められているものであるため、バス事業者やタクシー事業者と連携して輸送をしていただきたい。

また、既存のバスやタクシーに影響を与えるような運行は避けていただきたいが、バスやタクシー事業者はこの取り組みが始まって何らかの影響はあるか。

【堀田参考人】

持続可能な運営ということで、利用者からはいろいろな要望をいただいております。運行範囲をアピタ高蔵寺店、名古屋徳洲会総合病院、東海記念病院まで広げてもらえないかとの意見が多い。しかし、そういった場所までは交通量の多い場所を通行することにもなるし、タクシーやバスの運行に影響を与えてしまうため難しいと考えている。

また、現状の運行についても、名鉄バス様と調整をして、石尾台内のバスが走る道路はなるべく通らないようにしている。

この事業は、地域内の皆さんが自由に外出ができるような形にしたいと考えている。そのため、石尾台内のアピタへ向かうバス停の付近に駐車できるようにしている。事業は石尾台の中で行いたいと考えている。

【磯部会長】

運送実績等の目標値はあるか。

【堀田参考人】

まだ慣れておらず、毎日が満車だと対応が難しいため、今のところは1日5人程度が適当な数字だと考えている。

ただ、運賃100円だけでは運営資金としては足りないため、町内会単位で会員になってもらい、移動に困っている人たちを助けないという気持ちで年間300円を負担してもらえると自由に頑張ることができるのではないかと考えている。

【磯部会長】

バス事業者やタクシー事業者への影響があるのではと心配があったが、そのあたりについてはどうか。

【大野委員】

今のところ、連携はほとんどない。利用者がバス停で乗り換えをすることもほとんどないと考えている。NPO 法人様の利用者がどちらまで向かわれるかという情報を共有いただけるとありがたい。

アピタや病院まで行くとなると、現在の運行範囲の外に出ることになる。名鉄バスとしても定時定路線をその地区で走らせているので、範囲外へ出るとはバス事業にも影響が出ることになる。そのため、範囲が広がる場合は意見をさせていただくことになると思う。

現在はそういった考えは持っていないとのことなので、今後、もう少し情報をいただくことができ、逆にバスの利用者が NPO 法人様の乗り物を予約していることが分かれば、待機場所を案内する等の連携もできると思う。

【奥村委員】

この地域でタクシーが NPO 法人様のサービスに切り替わるといった話は聞いていないので、タクシーにとって影響はないと考えている。しかし、大野委員が言ったように範囲外に出るとなるとタクシーとバスに影響が出る。町内の方へは、自家用有償旅客運送の在り方というのをきちんと説明していただき、性質上できないことだと理解を深めていただきたい。範囲拡大により利便性の向上を図っていく方向に話が進んでくると、我々タクシーやバス事業者も NPO 法人様の事業への対応を考えていく必要があると思う。

【堀田参考人】

遠くへ行きたいとの要望が多いのは事実であるが、我々もそれはできないと伝えている。中央台のアピタまで往復するのは時間が掛かるため、他の予約がとれなくなり現実的ではない。安全運転ができる範囲は石尾台の中だと考えており、アピタまで行くことは考えていない。

また、バス停への接続については、現状の行き先は買い物、病院、憩いの家の順に多く、バス停の予約はほとんどないものの、名鉄バス様と連携し、協力したいと思う。

【奥村委員】

石尾台の中にはサンマルシェ循環バスもあり、170 円と大変安く利用できるためこちらを紹介してもらおうとか、荷物が多き時にはタクシーの利用を促進してもらおうとありがたい。

【堀田参考人】

タクシー事業者と協力して、共存していきたい。

【金田委員】

軽微な案件を含め、事故が発生していないことは誠に幸いである。しかし、有事を考えた対応も考える必要があると思う。通常の車両と同じように対物対人事故への対応、それから乗客への対応。さらに、ドライバーの方の資格についてどう考えているのか。例えば、乗っているときの事故ではなくて、乗車する前に玄関から出てきた時の事故についての対応も考えているか。

【堀田参考人】

安全が一番大切であるため、保険に入っている。それから車両については、法律上シートベルトは不要だが、利用者からもシートベルトについて聞かれることもあり、設置する

ことになった。ドライバーは出発前と戻ってからのアルコール検査を実施しており、管理者が車両を実際に見て確認をしてから出発するようにしている。このような形で安全面の管理をしている。加えて、救急箱も設置している。ただし、介護関係の専門の資格を持っているわけではないため、自分で乗って座ることができない方の利用はお断りしている。

【金田委員】

身体が不自由な方はお断りするとのことであるが、どこで線引きするかという難しい問題が出てくると思う。線引き無く平等に扱うためには、乗務員の資格として運転免許だけでなく、介護関係の資格も必要ではないか。

【堀田参考人】

介護が必要な方の乗車については責任が持てないため現状ではお断りをしている。将来的にそういった資格が必要なのではと思う一方で、ドライバーのハードルが高くなる。スタッフも高齢者なので難しいと考えている。NPO 内で対応しようという声があれば考えたい。

【金田委員】

事業の PR も大切だが、利用者が安心して利用できる状況をつくることのほうが大切だと思う。車はいつ何が起きるかわからないし、想定外のことが起きることが十分考えられるので、対応についても十分考えることが必要だと思う。

【磯部会長】

今日の議題を改めて整理したい。この事業は例えるならば石尾台内の「エレベーター」ではないだろうか。石尾台内をゆっくりと移動し、石尾台の外へは他の乗り物に乗り換えていただく。そのようにして他の乗り物と連携する。

それから、地域の課題として地域の足をどうやって確保していくのか。この事業だけではなく、地域全体で様々な人への対応を考えていく。これらをもとに話を整理していきたいと思う。

【磯部会長】

自家用有償旅客運送の運送の対価の変更について承認してよいか。

【委員】

異議なし。

【磯部会長】

協議事項 1 自家用有償旅客運送の運送の対価の変更について承認する。

(2) 報告事項 1 春日井市地域公共交通計画の実施状況について

【事務局 菊池】

資料 2 について説明を行った。今回の説明内容は、中部運輸局主催の第三者評価委員会で有識者から意見をいただくため、中部運輸局の様式で作成している旨説明を行った。

【磯部会長】

委員に意見を求めた。

【磯部会長】

春日井版MaaSアプリであるMove!かすがいの話題も資料に追加するという解釈でよいか。

【熊澤補佐】

資料2の4.【Act】の上段に記載しているモビリティ・マネジメント事業の一環として実施しているものであり、今のところ資料への追加は予定していない。

【本田参考人】

2.【Do】の箇所について、取組内容と利用者数等の記載があるが、考察に関する記載が欲しい。数字の記載だけではなく、この地区のこの点がこのように良くなった等、結果をもう少し盛り込むとより良い資料になると思う。

4.【Act】については、3.【Check】で挙げた問題点を4.【Act】で改善していくと言った筋書きになるところだが、令和4年度に実施していることを引き続き行うとしているため、さみしさを感じる。新たなことをやることで、課題を解消していくといったストーリーがよい。とはいえ、今までの実験を継続して本格運行に臨むことについても間違いではないので、引き続き協議を行っていくといった抽象的な表現ではなく、より具体的な方策を考え改善を訴えるような書きぶりにしていただくと良いと思う。

MaaSアプリについては、非常に良い新規の取り組みであるので、全面的に出すことでより良いアピールになるのではないかな。

【熊澤補佐】

第三者委員会が2月15日に開催されるので、本日いただいた意見や資料については、検討の上、運輸支局と調整を行う。最終的な修正資料を、委員の皆様には後日提供させていただきます。

【磯部会長】

地域公共交通計画は各市町が今一斉に策定している。各市町の事情等を考慮し、地域でどれだけ頑張れるかという話であるので目立った記載をして良いとのこと。資料の書き方を検討していただきたい。

【平野参考人】

かすがいシティバスの定期券はいつから発行しているのか。また、現状の売上枚数を教えて欲しい。記載できるのであれば、定期券の売上枚数も資料に記載したらどうか。

【熊澤補佐】

定期券は令和3年10月に販売開始しており、市役所における販売枚数は、本日までで一般定期143枚、高齢者等162枚の合計305枚である。

【磯部会長】

今の内容についても資料に記載できるか精査されたい。

【金田委員】

かすが台と中央台を結ぶ実証実験についてだが、「引き続き地域住民と協力し、地域のニーズを満たす路線の構築を行っていく」と記載されているが、現時点での地域のニーズはどの程度あるのか。高蔵寺ニュータウンが建設され、沿線団地等が周りに開発されたので、他の団地でも、かすが台と同じ問題を抱えているのではないかな。

【熊澤補佐】

石尾台やかすが台については地域住民から声が挙がり形になった。一方で他にも開発団地は存在するが、実証実験等ということで声が挙げにくいのか話は少ない。地域住民の声があれば取り組みができるような体制づくりに努めていく。

【大野委員】

補足をさせていただく。かすが台では、資料の写真のようにマイクロバスで運行を行っている。朝晩については大きなバスを使い、昼間の時間に小さな車を使って団地の中の細やかな道に入っていく。かすが台や他の団地、高蔵寺ニュータウンの中にも高低差がある場所がある。名鉄バスとしては、このような実証実験を行い、他地区でも導入できるのであれば積極的にやっていきたいと考えている。

現在は定例的に地域住民との会議に参加をしており、その中でバス停や路線についての要望等を聴き、運輸支局様と相談をしながら対応していきたいと考えている。

なお、現状商業的に利益が出る段階には至っていないが、今後高齢化が進むと、自宅の近くまでバスに来て欲しい、タクシーが使いたい、デマンド交通が良いと様々なニーズが発生すると思われるので、総合的に実験を行い、地域住民の生の声を聴いて進めていきたい。

地域住民、事業者、自治体と三位一体となって進めていけたらと思う。

(3) 報告事項 2 サンマルシェ循環バスの見直しについて

【木村委員】

資料3について説明を行った。

【磯部会長】

委員に意見を求めた。

【磯部会長】

サンマルシェ循環バスは運賃だけで成り立っているのでは無く、様々なところでやりくりがある。これらを踏まえ、会社側で判断があり、今回の見直しを行わざるを得ないということである。

この件について事務局側で検討したこと等あれば教えてほしい。

【熊澤補佐】

バス事業が厳しい状況であるということ認識し、高蔵寺リ・ニュータウン計画や、地域公共交通計画の中でも循環バスについて記載しており、重要な交通手段であることから、引き続き運行をしていただくよう調整をしてきた。その結果、1日7便というシティバス相当の運行本数で調整いただいた。

今後も、周知や広報活動等があると思うが委員の皆様にも利用についての検討や、意見がいただければと思う。

【磯部会長】

本日の議題すべてに共通するが、利用する人だけにとどまらず、地域の皆様の協力を得

ながら交通を維持しなければならない時代になっていくと思う。サンマルシェ循環バスは、まさに地域と協力したのものとして、みなさんと議論出来たらよいと思う。

上記のとおり令和4年度第2回春日井市地域公共交通会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名をする。

令和5年3月27日

会 長 磯部 友彦

署名人 木野瀬 吉孝